

第31回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内

何歳からでも始められるプログラミング



小学校ではプログラミング教育が必修化されました。今や幼児(未就学児)向けのプログラミング教室も珍しくありません。プログラミングは難しいと思われがちですが、意外と簡単なのです。簡単なゲームやアプリを作って趣味の一つとして楽しむことができます。今回は「Viscuit(ビスケット)」というプログラミング言語を使用します。メガネという仕組みたった一つだけで、単純なプログラムからとても複雑なプログラムまで作ることができます。仕組みは単純ですが組み合わせ方が様々なので複雑なことができるのです。プログラミング未経験者の方も、この機会にプログラミングを体験してみませんか？



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
真弓 英彦 先生

日時：2025年4月18日(土) 13:30~15:00
場所：奈良学園大学 3号館 1階 3101教室
定員：20名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

こちらから
申込みください。



第31回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

第32回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内

楽しく学び、今日からできる「認知症予防・対策！」



皆様は、「認知症」と聞いて、どのようなことをお感じですか？
「治らない病気」「予防なんてできない」「診断されたら、諦めなければ・・・」などとマイナスのイメージで捉えられている疾患のトップに陣取っている「病気」ではないでしょうか。
当日は、「完治は無理かもしれませんが、対処策があります」「(今からでも)間に合います」「人生、これからです！」などと言われたら、「地獄に仏」と飛びつく人が続出！という内容をお話してきたらと、今、準備しております。敵を攻略するには、まず、「相手を知ること」、そして、「秘策があっても私にはできそうもない」と諦めるのではなく、どうしたらできるようになるのか、そして、「あなただったらきっとできる」という対応策・秘策があります。そんなあなたの御期待に応えられる内容を準備して、お届けしたいと思っております。少しでも皆様の健康支援に役立てていただければ幸いです。



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
臼井 キミカ 先生

日時：2026年5月16日(土) 13:30~
場所：奈良学園大学 1号館 4階 1409教室
定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

こちらから
申込みください。



第32回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニューズレター第19号 編集後記

ニューズレター第19号をお届けいたします。今号を編集しながら改めて感じたのは、本学を取り巻く「人の輪」の温かさです。

今号では、地域企業や研究所との共同プロジェクト、客員教授による専門性を活かした教育、そして本学教員の紹介などを掲載しました。どのページからも、新しい知識や発見を追い求める「学びの熱気」を感じていただけるはず。また、「健康フェスティバル」に参加した学生たちの瑞々しい感想や、教育現場で奮闘する卒業生の頼もしいメッセージに触れ、私自身も胸が熱くなる思いでした。こうした一つひとつの繋がりがこそ、本学にとって何よりの財産です。

最終ページでは、今後開催予定の「登美ヶ丘カレッジ」をご案内しています。「難しそう」と身構えず、ぜひお散歩のついでに立ち寄るような、リラックスした気持ちでご参加ください。

このニューズレターが、皆様にとって本学をより身近に感じていただける「心の窓」となれば嬉しい限りです。これからも地域の皆様と共に、笑顔あふれる学びの場を創り上げてまいりたいと思います。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
伊藤 健一

各種公開講座が開催されました

第28回登美ヶ丘カレッジ開催

空間(図形)の分類の方法について
日時：2025年10月18日(土) 13:30~15:00
講師：人間教育学部人間教育学科 原口 忠之 先生



第28回登美ヶ丘カレッジにて、空間(図形)の分類方法について、講演させていただきました。2つの空間が同相であることや、オイラー標数について説明しました。皆さん、非常に興味をもってくださり、オイラー標数の具体的な計算をした時など、たくさん質問してくださいました。普段とは違った馴染のない数学の話に、最後まで集中して聴講して下さった皆様および、運営に携わって下さった関係者の方々には深く感謝いたします。

第29回登美ヶ丘カレッジ開催

高齢者のメンタルヘルス
日時：2025年12月20日(土) 13:30~15:00
講師：保健医療学部看護学科 西出 順子 先生



第29回登美ヶ丘カレッジにおいて、高齢者のメンタルヘルスというテーマでお話しさせていただきました。誰もがやがて必ず体験する「老い」をどう生きるか。広く知られる健康についての考え方や知識について、実際に心身のバランスを上手く取りながら日々を過ごしておられる諸先輩方の実例で検証しながら話を進めていきました。参加された皆様からは「今の過ごし方で間違っていなかった」とのご感想や、今後さらなる交流を希望等、うれしいお言葉をいただきました。私自身が地域の皆様に元気づけていただいていたような気持ちです。また、何らかの形で皆様にお会いできることを願っております。ありがとうございました。

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)のご紹介



「ともに究め、明日の社会を拓く」

～情報通信関連分野の先駆的研究とイノベーション創出で課題解決に取り組む～

奈良市のお隣、京都府相楽郡精華町にあるATRは、2026年に設立40周年を迎える研究所です。京都・大阪・奈良の府県境に広がる「けいはんな学研都市」の発展に中核的な役割を果たしつつ、情報通信関連分野の先駆的研究とイノベーション創出で課題解決に取り組んでいます。

脳機能の研究に基づく最新のブレインマシンインターフェースや人と共に進化する次世代人工知能「サイボーグAI」の脳情報科学、サイバネティック・アバターと共生する百寿社会をめざす深層インタラクション、豊かな未来社会のための安全で信頼できる無線・通信の分野で研究開発を進め、成果の社会展開と事業化に取り組んでいます。また、世界中のイノベーション拠点と連携してスタートアップ支援やオープンイノベーションプロジェクト創出支援等のイノベーションエコシステム構築も行っています。

毎年秋には、広く一般の方も参加できるオープンハウス(研究発表会)を行っています。最先端の研究に触れることができますので、ぜひお越しください！

ご寄稿

次世代ニューロリハビリテーションに向けた研究と人材育成



客員教授 野田 智之

2025年4月より奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科にて客員教授の身分をいただき、普段は本学のすぐ近くにあるATR脳情報通信総合研究所を拠点に、ニューロリハビリテーションを効率化するAIロボット技術の研究開発に取り組んでいます。けいはんな学研都市の病院とも連携し、臨床現場におけるAI・ロボット技術の実証を進めています。ロボティクス研究者として、機械・人工知能が人の身体と融和する次世代アシスト技術を開発し、医療現場へ橋渡しする成果展開を目指しています。

研究に加え、教育も重要なミッションです。令和7年度は本学の前田吉樹先生とともに研究法の授業を担当し、学生が歩行アシストロボットを用いた研究を計画し、生成AIを活用して運動学・生体信号を解析し、研究発表に挑戦しました。その中で「研究の面白さに気づいた」という声も寄せられています。

現在は国内外の大学・研究機関との連携教育も進めており、本学保健医療学部リハビリテーション学科との協定に基づき、卒業研究や修士研究のテーマと合致すればATRで研究を実施することも可能です。これらの取り組みを通じて、本学のみならず、けいはんな学研都市全体での人材育成に寄与できればと考えています。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

真弓 英彦 先生



私は情報処理関連企業のシステムエンジニアとして多業種多業務のシステム開発に30年以上携わってきました。その経験から得られたスキルやノウハウを、昨今急激に加速した教育の情報化(DX)に関する授業を通して、これから教員を目指す学生に情熱を持って伝えながら、5年後10年後の教育をリードする教員像を学生たちと一緒に考えていきます。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

趙 聖櫻 先生



元々の大学院では精神疾患について研究を行っていたのですが、保健師課程を得て地域に住む外国人の方への支援について興味を持ち、そちらの研究を行っています。自らも外国籍であるため日本と海外でのそれぞれの視点や違いについて検討し、お互いの良い部分を合わせることでよりよい支援に繋がられないか日々試行錯誤しております。多角的な視点を得るために、皆さんもぜひ一度海外に旅行に行ってみてはいかがでしょうか。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

木村 大介 先生



リハビリテーション学科作業療法学専攻の木村大介です。作業療法概論および身体障害分野の講義を担当しています。作業療法概論では、学生が初めて出会う作業療法の魅力を大切にしながら、「作業療法とは何か」という答えのない問いを学生と共に考えています。研究ではヒトの行動分析を手がかりに、作業療法の奥深さや可能性を探究しています。学生と共に学びながら、作業療法の面白さを広げていきたいと考えています。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
7期生
中川 友馬 さん

私は、奈良学園大学にて中高の数学と特別支援学校の教員免許を取得し、大学推薦により堺市の教員採用試験に合格し、現在、中学校の数学教員2年目となります。学級担任や生徒指導、校務分掌などで日々多忙な中でも、前向きに頑張っています。最も時間を費やしている授業では、生徒たちの思考力を高めるため、ICTの活用が欠かせません。在学中にICTを用いた授業例について学んだりICTを用いた模擬授業を行ったりした経験は、授業づくりへの不安を和らげるなど、今も現場で大きな支えとなっています。多くの学びと多くの仲間との出会いを提供することで、教員としての基盤を築いてくれた奈良学園大学にとっても感謝しています。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
4年次生
松井 美咲 さん

私は幼少期から、なんとなく看護師になりたいと思っていました。本気で目指そうと決めたのは、高校一年生の春に母が目の前で倒れたことがきっかけです。混乱して救急隊が来るまで何もできなかった一方で、落ち着いて対応する救急隊や搬送先の看護師の姿を見て、医療者の素晴らしさを実感し、看護師になりたいと強く感じました。将来は命を救うだけでなく、患者さんの気持ちに寄り添える看護師になりたいです。

健康フェスティバルの感想



健康フェスティバルが始まる前、しっかりとコミュニケーションをとることができるのだろうかという不安な気持ちがありましたが、いざ始めてみると、コミュニケーションまで意識を回すのは難しかったが、問いかけをすると笑顔でたくさんお話をしてくださり、私からも自然と質問や返事などができて、とても楽しかったです。また地域の人と話していく中で、身体の状態を把握することが出来たので良かったです。自分が感じたことなど何か一つ質問をするだけでもこんなに会話が弾み、楽しそうにしてくださるのだなとうれしく思いました。そして、驚いたことは、参加された方々の年齢です。どの方も実年齢よりも若く見えました。先生に「今日来てくださった方々がとても若々しくて驚きました!」と報告すると「こういったイベントに積極的に参加される方は健康に対して意識されている方が多い」ということを教えてくださり、たくさんの方々にこのイベントを知っていただき、健康への意識を高めていただけると良いなと感じました。そして、地域の人と話していく中で身体の状態を把握することが出来たので良かったです。今回、健康フェスティバルに参加し、人を観察するにはまず関わることが大切だと分かりました。だから健康フェスティバルで学んだことを忘れず、実習など様々なことにつなげて挑戦し頑張っていきたいと思っています。



協力者：看護学科1年森川萌葵さん、看護学科2年秋田彩菜さん 文責：看護学科 上野栄一